第６回

グローバルワークキャンプ in ASO

報告書

～ Let's create our future!! ～

期間：2018年８月20日（月）～８月23日（木）　３泊４日

会場：国立阿蘇青少年交流の家

目次

目的・概略…… １Ｐ
スケジュール…… ２Ｐ
第１分科会「教育」…… ３Ｐ
第２分科会「環境」…… ４Ｐ
第３分科会「観光」…… ５Ｐ
第４分科会
「防災とリーダーシップ」…… ６Ｐ
基調講演…… ７Ｐ
全体交流会…… ８Ｐ
ユメノトビラ
～ワールドカフェ～…… ９Ｐ
阿蘇学…… １０Ｐ
全体報告会…… １１Ｐ
観光…… １２Ｐ
アンケート集計…… １３Ｐ
参加者より…… １４Ｐ
実行委員長より…… １５Ｐ
４日間の軌跡…… １６-１７Ｐ

目的・概略

目的

～人と人をつなぐ国際交流を通したグローバル社会における若い世代の人材育成～

グローバル化、新興国（特にアジア）の成長等、世界全体の社会構造が大きく変化する中で、アジアを中心に未来を担う若い世代が集い、交流を図りながら、共生社会を構築するための自己の存在認識と可能性を発見する。

概略

［期　間］2018 年（平成 30 年）8 月 20 日（月）～ 23 日（木）3泊4日
［会　場］国立阿蘇青少年交流の家　（熊本県阿蘇市一の宮町宮地 6029-1）
［参加者］63 名
日本人大学生 38 名
留学生 11 名（ミャンマー３名、モンゴル、エジプト、パプアニューギニア、エルサルバドル、グアテマラ、ドミニカ共和国、大韓民国、中国、各１名）
国外の大学生 14 名（６カ国）（大韓民国、台湾、各３名、タイ、ミャンマー、モンゴル、インドネシア、各２名）

主催

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団
（国際交流基金アジア・市民交流助成事業を活用して実施）

第６回 グローバルワークキャンプ
大会スケジュール

８月20日（月） ＤＡＹ１

8：30	日本文理大出発（大分）
9：30	熊本市国際交流会館出発（熊本）
11：30	国立阿蘇青少年交流の家　到着
12：00	昼食
13：00	開会式・開会宣言
13：40	基調講演
15：50	全体交流会
17：30	夕べの集い
18：00	夕食・入浴
19：00	分科会の導入①
21：00	活動終了
22：30	就寝

８月21日（火） ＤＡＹ２

6：00	起床
6：45	朝の集い
7：00	朝食
9：00	分科会活動②
17：30	夕べの集い
18：00	夕食・入浴
19：00	阿蘇学
21：00	活動終了
22：30	就寝

８月22日（水） ＤＡＹ３

6：00	起床
6：45	朝の集い
7：00	朝食
9：00	分科会活動③
17：30	夕べの集い
18：00	夕食・入浴
19：00	ユメのとびら～ﾜｰﾙﾄﾞｶﾌｪ～
21：00	活動終了
22：30	就寝

８月23日（木） ＤＡＹ４

6：00	起床・清掃
6：45	朝の集い
7：00	朝食
9：00	全体報告会
11：00	評価会・閉会式
	閉会宣言
12：10	阿蘇青少年交流の家　出発
12：40	昼食（草千里）・観光
13：40	草千里　出発
14：20	阿蘇神社門前町到着・観光
15：15	阿蘇神社出発
16：50	熊本市国際交流会館到着・解散（熊本）
17：10	日本文理大学到着・解散（大分）

第１分科会　「教育」

熊本大学　２年　那須　啓一郎

この分科会では、これから世界中のすべての子どもたちのためには、どのような教育が必要であるのかという課題について議論しました。そもそも「教育」とは何のためにあるのか、教育を受けることによって生活や人生にどのような影響が与えられるのかという「教育」の基盤となる考えから議論していきました。

初日の分科会導入では、発展途上国を中心とする教育が受けられない子どもたちのいる地域の問題や現在行われている支援について、また日本で現在進められている教育改革についてレクチャーし、今回の分科会での問題意識について共有を行いました。さらに、参加者自身の持つ「教育」に対するイメージを出し合いました。日本や韓国の、詰め込み型の教育に関するワードが挙げられていました。

２日目は、通訳として参加されていた元熊本市役所国際交流員のビリー・プライスィンガーさんから、ドイツの教育システムについてお話していただきました。ドイツでは、子どもの教育方針として「自己責任」で行動することを低年齢期から学ばせています。日本や韓国などとは全く違った形の教育を受けたビリーさんのお話を受け、何のために教育を受けているのか、教育がどのように我々の生活と関わっているのか、考える時間になりました。また、後半は阿蘇青少年交流の家の北見靖直さんより「社会教育」からの視点で教育についてお話していただきました。北見さんが強く訴えられたことは、「自己肯定感」「自己有用感」を得ることによって、「自己選択力」「自己決定力」を高めることができるということ。それは、人とのかかわりの中で生まれるものであり、教育とはそれを教師や友達とのかかわりを通して学んでいくことである、というお話を受けて、教育の本来ある形を考えていきました。

３日目は、最終ワークとして新しい教育プランをグループに分かれて考えていきました。教育を十分に受けられない地域の子どもたちや学びたい人のために、その時「学びたいこと」を「学びたいだけ」、「学びたい人同士」で学びあうプランや、職業体験を小中学生の間から行い、様々な将来を考えることができるようにする教育方針とするプランなどが挙げられました。

今回この分科会で、さまざまな分野を専攻する参加者と議論を交わし、「教育」とは、自分がこの人生の中でどのように生きていくかを考える、また、この社会の中でどのような役割を持って生きていくかを考えていくためにあるのではないかと考えました。「教える人」と「学ぶ人」の関係の中でのみ行われるものではなく、普段の人同士のかかわりの中でも、人はさまざまなことを考え、選択していきます。普段の生活の中で、今回の分科会で考えたことを活かしていきたいと思います。

第２分科会　「環境」

日本文理大学　２年　安部航基・城下佑之介

私たち環境分科会EC（実行委員）は、環境問題の現状を理解してもらうことを目標に日程を組みました。

初日は交流を深めることを重要視し、後日の分科会活動を行いやすくする為アイスブレイクを多めに取りました。最後に記念撮影を行い、分科会内で交流を深めることができました。

２日目は、午前中は世界各地でおきている環境問題の中で「ヒートアイランド現象・地球温暖化現象」について参加者たちの知っている限りで討論してもらい、後に日本文理大学の池畑義人教授に講演していただきました。午後からは講演で学んだことを踏まえ、現状私たちに何ができるか・将来何ができるかについて討論し、最後に参加者全員にアクションプランを考えてもらい一人ひとり発表しました。様々な意見が出て、みんなで共有できたのはよかったですが、全体的な時間配分に失敗し、時間を多くとってしまい手際が悪かったことが反省となりました。

３日目は地球温暖化が生物に与えている影響について討論してもらいました。具体的には、「生物多様性の消失の問題点・原因・解決法」という内容で参加者が知っている知識の範囲でグループ討論を行いました。その後は日本文理大学の杉浦嘉雄教授に生物多様性の消失について講演していただきました。午後からは杉浦教授から課せられたテーマとして各グループで「国東半島宇佐地域農業遺産ビジネス・アイディアプランコンテスト」のプランを考えました。また地球温暖化による生物の被害についてまとめ、全体報告会に向けた２日間のまとめを行い、発表準備に取り掛かりました。

この３日間を通して、最終的には環境分科会参加者や他の分科会参加者に環境問題について、特に地球温暖化が最も重大な問題であるということを認識してもらい、まずは節電といった個人で身近にできることをしてもらいたいと考え進めてきました。今回の参加者たちにも十分に伝わったのではないかと感じました。

第３分科会　「観光」

熊本学園大学　４年　永山　仁

この分科会では、「観光」というトピックに着目しましたが、そのなかで「観光の力を使って地域を活性化させよう」をテーマに設定しました。背景にあるのは日本の人口減少･都市部への人口集中の問題、将来的に地方は社会活動を維持できなくなるのでは？という問題です。観光で地域に多くの人を呼び込み、食事代など多くのお金を落としてもらうことで地域の収入を増やし、雇用の創出により若者の都市部への流出を防ぐことができます。これが地域の活性化に繋がります。今回、熊本県北部にある「産山村」に焦点を当て、「どのようにしたら多くの観光客を呼び込めるか？」を４日間のゴールに設定しました。

まずは４日間議論していく仲間を知るために自己紹介を行いました。次に導入の部分としてなぜ観光に着目したのか？観光と地域おこしがどう結び付くのか？を説明しました。そして、なぜ産山村に焦点を当てたのか、産山村の人口など基本情報＋観光情報を説明しました。この村に焦点を当てた理由は豊かな観光資源がありますが、人口減少・高齢化の進行など将来地域を維持し続けることができるのかという問題があります。それに対してどのような取り組みができるかアイディアが出やすいよう実際に観光スポットを回り、その後、意見を共有しました。そこから村の観光地の良い点・改善すべき点がみえてきました。まずは４グループに分かれて意見をシェアしましたが、どのグループも活発的で多くの意見が出たので良かったです。

具体的に、良い点としては自然が綺麗、水がおいしいといった意見が多く出ました。一方で、改善点としては「池山水源」といった自然豊かな観光資源はあるが、何か物足りない。他にも村の認知度が低い、村までのアクセスが厳しい、雨天時の場合観光地の魅力が下がるという意見が出ました。まさしくこれらは村の観光地が抱える問題であり、共通の認識とすることができました。そこから情報宣伝・公共交通機関・体験・雨天時のプランの４チームに分かれてアイディアを出し、まとめました。

今回初めてECを経験してみて、準備と時間管理の大切さを学びました。隅々まで準備が出来てなかったのでバタバタしたり、本番中も夜まで考えたりしなければなりませんでした。深い議論をするための時間が足りず、目標としていた観光誘致の方法という核のアイディア＋観光地の管理方法・マーケティングといった包括的なアイディアを提案するというレベルまでには持っていけませんでした。リーダーとして引っ張ていた私は、悔しさと反省の思いでいっぱいでした。しかし、振り返ってみると参加者にたくさん支えられた４日間でした。一生懸命ついて来てくれ、何かできることはない？とたくさん声をかけてくれました。本当に温かい皆と一緒に活動できたことが嬉しかったです。私自身もそうですが、観光が地域おこしに繋がるという考え、観光にさらに興味をもってもらえた意味のある分科会だと思います。

第４分科会　「防災とリーダーシップ」

熊本大学　博士課程３年　Alvarez Gondzalez Clara Maria

"Leadership in Disaster Management"

Major catastrophic events such as the Kumamoto Earthquake in April 2016 remind us how unpredictable nature can be. Though we cannot know what kind of disaster will strike, when or where, taking the time to prepare for several possible scenarios can make the difference in the event of an emergency.

During the four days of the Aso Global Work Camp, we had the opportunity to interact with students from different countries and backgrounds: Egypt, El Salvador, Guatemala, Indonesia, Japan, Myanmar, Dominican Republic and Papua New Guinea, leading to a very enriching cultural exchange.

Day 1 - Introduction

In this introductory session, we shared our own experiences during the Kumamoto Earthquakes, identification of problems that arose regarding the international community, specially the language barrier and also learned about the situation in other countries, according to all of the participants experiences back in their countries during different disasters.

Day 2 – Disaster prevention and leadership

The workshop was based around a series of short presentations that covered topics from the Kumamoto Earthquake Experience Project (KEEP), personal experiences, natural disasters, man-made disasters, among others. Participants discussed some examples and situations and provided their perspectives on the discussion questions. Finally, participants took part in a role-playing activity, in order to apply what they have learned

Day 3 - Tokai University Aso Campus

On the third day, participants had the opportunity to visit the Tokai University Aso Campus, which was severely damaged during the Kumamoto Earthquakes. We were welcomed by three students from the Faculty of Agriculture, and while walking around the Campus, one of them shared us her experience and how the bond among the Tokai Students with the community was a key point to help each other to overcome this tragedy that claimed four lives in the area. This visit was an inflection point for the participants, and we believe that it made us grow in a positive way, making everybody think more about the importance of the community collaboration.

「災害管理のリーダーシップ」

2016年４月に起きた熊本地震のような自然災害は私達に自然がどれほど予測不可能なものかを思いださせます。我々はどんな災害がいつ、どこで起きるか知ることはできないけれど、いくつか予想できるシナリオを準備する時間をもつだけで緊急時の対応に違いが生まれるかもしれません。

阿蘇グローバルワークキャンプの４日の間、エジプト、エルサルバドル、グァテマラ、インドネシア、日本、ミャンマー、ドミニカ共和国、そしてパプアニューギニアなど違う国、背景をもつ学生達と交流する機会がもて、文化交流を強化することに繋がりました。

１日目―序論

この分科会の初日では、参加者が熊本地震の体験を共有したり、外国人コミュニティが直面した様々な問題について学びました。そこで特に言葉の壁が問題であることを発見するとともに参加者から色々な自国災害の体験や他国の状況について学びました。

２日目―防災とリーダーシップ

ワークショップでは、まず、個人的な経験、自然災害、人災、熊本地震経験プロジェクト（KEEP）の活動の話題を中心に短い発表を行いました。続いて、参加者同士で災害に関する例題や状況についてディスカッションを行い、それぞれの考えを共有しました。

最後に、学んだことを実践するために参加者とロールプレイを行いました。

３日目―東海大学阿蘇キャンパス見学

３日目は熊本地震で甚大な被害を受けた東海大学阿蘇キャンパスを訪れました。農学部の３名の学生が出迎えてくれ、案内をしてくれました。キャンパスを歩きながら、彼らの１人が震災時の自分の経験を私達に話してくれ、地域と東海大学の学生達の絆が、この地域で４人の命が犠牲になった悲劇を乗り越え、お互いに助けあうためにどれほど重要なものであったかを教えてくれました。

この訪問は参加者にとって転換点になり、また、各人にコミュニティの協力の重要性についてさらに考えさせ、私達を前向きな方向に成長させたと思います。

基調講演

熊本大学　２年　那須　啓一郎

今回の基調講演では、株式会社「イトバナシ」の伊達文香（だてふみか）さんにご講演いただきました。伊達さんは、大学院在学中のインドへの留学をきっかけに、現在代表取締役を務めていらっしゃる「イトバナシ」を設立されました。

今年度のテーマ「Let‘s Make Our Future!」には、この４日間を通して、自分たちの将来を見つめ直してほしいという思いを込めています。その中で、この４日間が、人生の「ターニングポイント」になってほしいという願いを、この基調講演を伊達さんに依頼しました。

伊達さんの大学在学中の経験から、現在の活動までをライフチャートなどを使ってお話ししていただきました。様々な挫折や、出会いを通して、その度に様々なことを考えて、現在に至る伊達さんの生き方は、とても魅力的でした。

今の日常の中に、人生を変えるきっかけとなるような、刺激的な出会いは多くないかもしれません。今回のこのグローバルワークキャンプは、初めて出会う人や、あまり出会う機会のないような人と議論を交わすという、少し日常とは離れたイベントでした。このような機会が、少しでも参加者の人生を考えるきっかけになれば、、、という思いが、参加者の皆さんにも伝わったように感じています。

ただ、伊達さんのようにアクションを起こすことは、そう簡単なことではありません。しかし、「もし、こんなことができたら、、、」と考えていると、私はとてもワクワクします。今回 EC として関わる中でも、自分の将来について考えることが多くありました。

キャンプ全体として、将来や夢について考える企画を多く進めてきました。それらを行う中で、参加者の皆さんが多く議論し合う、語り合う姿が見られたのも、この基調講演を通して、伊達さんにチャレンジすることの魅力を伝えていただいたからだと感じました。この講演が、キャンプ全体の経験も含めて、参加者の皆さんがこれからの人生を考えるいいきっかけになれば、と思っています。

全体交流会

熊本学園大学　４年　永山　仁

１日目の基調講演が終わった後は、全体交流会を行いました。

その中で「仲間探しゲーム」というものを行いました。このプログラムでは、多くの参加者とコミュニケーションを取り、これから４日間楽しく有意義に過ごすためのきっかけ作りにしてほしいという目的があったので、言語など関係なく、皆が交流できるようなゲームを考えました。参加者全員の背中にフルーツか動物の絵が描かれた紙を貼り、歩き回って自分と同じ絵を付けた人を見つけるというものです。当然自分の背中は見えないのでまずは周りの人にどんな色？というようにヒントを求めて（直接どの絵か聞くのは禁止）自分がどの絵か予想して探すというルールにしました。そうすることで多くの人とコミュニケーションを取り、交流ができるのではと思いました。

実際当日行うと、ルールは理解してもらえましたが、紙を全員の背中に貼るのに時間がかかった中でのスタートでした。すると、開始早々に多くの組が完成されていました。なぜそんなに早く完成したか分からず私は混乱してしまいました。あっという間にゲームが終わり、すごく焦りました。もう一つ、ゲームを考えていましたが、することはないだろうと思い、準備物を用意していませんでした。実行委員で話し合った結果、英語しりとりをすることにしました。ルイスさんのアイディアです。僕は焦ってルールを説明する中でルイスさんは語りかけるように参加者に説明しており、ざわついていたその場も少し落ち着いた雰囲気になり、本当に助かりました。無事に時間まで皆でEnglishしりとりを楽しむことができました。終わった後、なぜあんなに早く終わってしまったのか参加者に意見を求めると、日本人が多かったから簡単だったのでは？もっと制限をかけてゲームを難しくすれば良かったのでは？という意見が出ました。確かに自分がどの絵か分かってしまえば後は仲間を探すだけなので簡単です。そこで一人に対して一つの質問しかしてはいけない、Yes Noクエスチョンにするというように自分がどの絵か判断する際そのハードルを上げて難しくしておけばたくさんの人と交流ができゲームも面白くなったのではと思います。

今回の反省としては、まずは準備不足ということです。事前にシミュレーションをしておけば簡単ですぐ終わるということも分かっていましたし、もっとルールをひねって面白味のあるゲームにすることができたのではと思います。また、決めつけることは良くないと思いました。色々なことを事前に想定して準備をする、今回身に染みて分かったので良い経験としてこれからに活かしていきたいです。

今回少しハプニングが起きてしまいましたが、開会式～基調講演までの少し張りつめていた空気が終わった後は和らぎ、皆で有意義な四日間とするきっかけに繋がったと思います。ECどうしも団結してともに壁を乗り越えたので結束力が高まりました。

ユメノトビラ　～ワールドカフェ～

熊本大学　１年　出口　ゆい

今回のユメノトビラでは「10年後あなたは何をしていますか？」「今あなたは何をしていますか？」という２つの質問を参加者に考えてもらいました。

「あなたの夢は何？」「将来何をしたい？」という質問は皆さんも今までよく質問されてきたでしょう。しかし、まだしたいことが決まってなかったり夢がなかったりする場合がありけっこう困ってしまう人がたくさんいると思います。

そこで、あえて10年後とすることで身近に考えやすくなると思い、こういった質問をしました。実際に「10年後について考えることはなかったので新鮮で面白かった」という意見がありました。もうひとつの質問に関しては今していることを共有することで今まで知らなかった分野や活動について知ることができ、視野を広げてもらえるのではないかと思い質問しました。

話し合いの仕方として今回はワールド・カフェの形式を利用させてもらいました。

4，5人という少人数での話し合いなので自分の意見を出しやすく、質問もしやすいかつ、話し合いの結果は紙に書いてあるので最後には各テーブルを見て回り、参加者もみんなの考えを知ることができるというメリットがあります。ECメンバーと何人かの参加者には各テーブルの司会進行と記録係になってもらいましたが、予想以上にうまく進行してもらえたのでスムーズに議論が進みました。

実際に「いろんな人の目標が知れて面白かった」「日本人、外国人関係なくいろんな考えを聞けて良かった」「他の人の夢に感動した」「もっと自分自身の将来について真面目に考えよう思った」などの意見があり、グローバルワークキャンプらしいいろんな国の人たちとのコミュニケーションの場となり将来について考える場となってもらえて本当に良かったです。

時間がおしていたため、少しこの活動の時間を短くしてしまったため「もっと話し合う時間が欲しかった」という意見が多くあげられました。

もっとこういった参加者みんなが交流できる活動を増やしていくべきだと感じました。

この活動全体としてはいろんな国の人たちと将来についての考えを出し合って、議論してもらうことで自分自身について考えなおす有意義な時間になってもらえたと思います。

外国人と交流し、楽しい活動になりました。

阿蘇学

崇城大学　1年　森本　凛太郎

今回の阿蘇学では、宗教法人阿蘇神社の権禰宜（神職の一種）と同時に文化財担当の学芸員でもいらっしゃる池浦秀隆さんに講演をしていただきました。

講演は阿蘇地方の地形に関する説明から始まりました。阿蘇地方は広大な外輪山に囲まれた世界最大のカルデラ内に位置する地域です。すぐ近くに活火山があるにも関わらず多くの人が住んでいらっしゃいます。このように世界的に見ても珍しい地形に阿蘇神社は存在しています。私は生まれも育ちも熊本で阿蘇について多少の知識はありましたが、池浦さんのお話を通じて阿蘇が非常に特徴のある地域だということを改めて実感しました。

続いて阿蘇で祀られている神様やそれにまつわる神話の紹介がありました。この地で祀られているのは健磐龍命という神様です。神話によると、カルデラ湖であった阿蘇の外輪山の西側を崩して湖内の水を干し阿蘇に住む人々に農耕の道を開いたと言われています。また、信仰の対象である火山や阿蘇神社の宮司職を世襲している阿蘇氏の歴史についてのお話もありました。

そして熊本地震で被害を受け、現在、復旧中の神殿や楼門の解説がありました。阿蘇神社にある一の神殿、二の神殿、三の神殿、楼門、神幸門、還御門これら六棟が国の重要文化財となっています。池浦さんによると、楼門は二重門としては九州最大とのことでした。

神殿・楼門の話しと同時に、阿蘇の農耕祭事の歴史と現在抱えている問題についての説明もありました。阿蘇神社などで行われる一連の祭りが稲作儀式の典型的な事例として学術的に高く評価され、国の重要無形民俗文化財に指定されたとのお話しがありましたが、祭事が阿蘇地域の人々に深く根付いていることを強く感じました。

参加した学生の中で印象的だったのは、留学生の反応でした。日本の神道とは違う宗教観を持つミャンマー、インドネシア、パプア・ニューギニア、エジプト、エルサルバドルからの留学生が池浦さんのお話を通じて日本人の宗教観を知り、講演後、様々な質問をしていました。

現在、神殿や楼門が地震被害からの復旧途中で多くの観光客が訪れていらっしゃいますが、池浦さんは、阿蘇神社に限らず現在、日本全国の寺社仏閣が観光地化する中でもっとも大切なことは、観光に迎合するのではなく、これまでの伝統や神事を守ることだと仰っているのが印象的でした。

講演の中で、神道の核にあるのは自然との共生という思想であり、今回の大地震も含めた自然現象を受け止めその中で人が生きていくという考えが神道の根本というお話しは、熊本地震からの復興途中の熊本にとって非常に考えさせられるメッセージのように感じられました。

今回の講演は、地形、神話、歴史、文化、復興への道のりなど、阿蘇について包括的に知ることができました。また、防災、自然との共存、地域と文化のあり方など、多くの示唆に富んだものであり、機会を見つけて多くの方に伝えていきたいと思います。

全体報告会

日本文理大学　２年　安部　航基

全体報告会とはこのグローバルワークキャンプの中で最も重要なプログラムのひとつです。４日間の各分科会の活動内容や学んだことを整理したポスターを作製し参加者全員で発表します。まず方法は各分科会で４つのグループに分かれ、他分科会参加者と新しいグループを作り、回遊型のポスターで発表を行いました。各分科会参加者は参加している分科会のポスターが回ってきたらポスターの前で発表を行います。分科会で学んだことを全員が発表を行うには参加者一人ひとり活動内容を整理し自分の中で深化させ、意見を分科会内や他分科会参加者の前で言えるようにならなければなりません。また、４日間分の各分科会での活動内容を他分科会参加者の様々な国籍の人の前で説明をするのですから、参加者としては最も成長を問われる瞬間だと思います。

今回のグローバルワークキャンプでは「教育」「環境」「観光」「防災」の４つの分科会活動を行いました。グループで別れた参加者で発表を行うのですから同じ分科会でも個性が別れ様々な発表が行われていました。残念ながら私は実行委員会の全体報告会担当者となっていたのでゆっくりと見て回ることはできませんでしたが、どのグループも見ごたえのある発表を行っていました。

全体報告会では今年のグローバルワークキャンプの最後に相応しいものとなったと思います。学校や専攻・住んでいる所や国が異なる学生たちがテーマについて真剣に学んで話し合い討論することは有意義な時間となったはずです。参加者はもちろんですが、実行委員にとってもいい経験になったとおもいます。しかし一方で開始時間の遅れや土壇場でのスケジュール変更など私たち実行委員会の力の足らなかった点が浮き彫りになった全体報告会になってしまいました。しかし悪いことばかりではなく良かった点も多かったと思います。

最後に私個人の感想ですが、今年の実行委員会は何かを企画して運営する経験は初めての人がほとんどで至らない点が多くありました。しかし、全体報告会を通して各分科会実行委員の活動内容や各発表のクオリティから各分科会実行委員の頑張りがわかりました。このグローバルワークキャンプで一番成長したのは実行委員会のメンバーだと確信できました。

観光

熊本大学　博士課程３年　Alvarez Gondzalez Clara Maria

The city of Aso is filled with beautiful and unique landscapes that attract many tourists every year. For this reason, we decided to share some of this beauty with the participants and go on a trip around Aso for the last day of our program.

For this trip we decided to visit some of the most important landscapes in Aso,such as Mount Aso and the Aso Shrine,the weather conditions were not on our favor.

Mount Aso is an active volcano in the center of Kyushu. Its ancient caldera ranks among the world's largest, with a diameter of up to 25 kilometers and a circumference of over 100 kilometers. In the center of the caldera stand the mountain's active volcanic peaks, including Mount Nakadake, whose spectacular crater is easily accessible to tourists by toll road or ropeway.

We went to Kusasenri, a prairie with a beautiful view of the smoking Mt. Naka. From there we could see the crater. However, due to the raining we couldn't get near the crater or enjoy a stroll, as we planned. We settled for enjoying the landscape and visiting the nearby stores.

We also visited the Aso Shrine and walked around the temple town shopping area. The Aso Shrine is one of the oldest in Japan, it was also heavily damaged in the 2016 Kumamoto earthquakes. The shrine's tower gate completely collapsed. The worshiping hall also collapsed. Sadly, we couldn't enter the temple because it was closed for construction work, but the participants could enjoy walking around the temple town shopping area.

Finally, we had planned to visit Daikanbou. This place provides a superb view of the whole Aso caldera. Sadly, the rain didn't allow us to visit this point; but it is strongly recommended to anybody who visit Aso in the future.

Even though the weather conditions were not in our favor, we believe that the participants enjoyed the scenery that Aso provides, and we look forward to show it to future participants.

阿蘇には、毎年たくさんの観光客を魅了するようなどこにもない美しい景色で満たされています。そこで、私達はワークキャンプの参加者と阿蘇の美しさを共有するため、このプログラムの最終日に阿蘇を観光地として行くことに決めました。今回、私達は阿蘇山や阿蘇神社など、阿蘇で一番重要な場所を訪問しましたが、唯一、天気が良くなかったことだけが残念でした。

阿蘇山は九州の中心にある活火山です。阿蘇の昔からのカルデラは世界最大級で、直径が25キロメートル、周りは100キロメートル以上あります。カルデラの中心には中岳を含む活火山の山頂があり、壮観な火口を観光客はロープウェイや有料道路を使い簡単に近づくことができます。

私達はまず、噴火している中岳が見える美しい草原、草千里に行き、火口の噴煙をみることができました。しかし、雨のため、計画をしていた火口付近まで行ったり、散歩を楽しんだりすることはできませんでした。そこで景色を楽しんだり、近くのお店に行ったりしました。

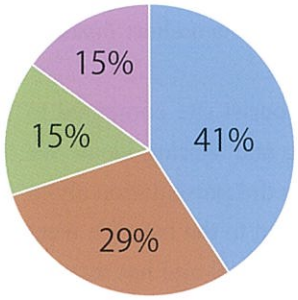
また、私達は阿蘇神社訪ね、阿蘇神社とその近くにある門前町商店街を見て歩きました。阿蘇神社は日本でもっとも古い神社のひとつであり、また、２０１６年の熊本地震で大きな被害を受けました。神社の楼門は完全に崩壊し、本殿も崩壊しました。現在、改修工事のため、神社内には入れず残念でしたが、参加者は阿蘇神社の商店街の散歩を楽しむことができました。

最後に、私達は、阿蘇の大観峰という阿蘇カルデラを一望できる、最高の景色がみえる場所に行く予定でしたが、雨のため行くことができませんでした。しかし、今後、阿蘇に行く人達にはぜ訪れてもらいたいと思う場所です。

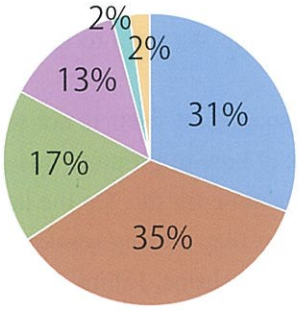
天気はあまりよくありませんでしたが、参加者は阿蘇の景色を十分に楽しめたと思います。また、今後、参加者にこの素晴らしい阿蘇の景色を伝えていきたいと思います。

アンケート集計

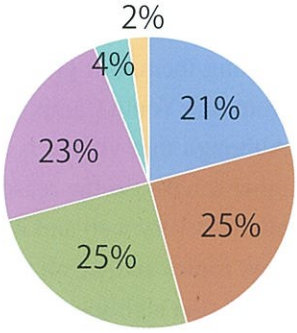
分科会活動



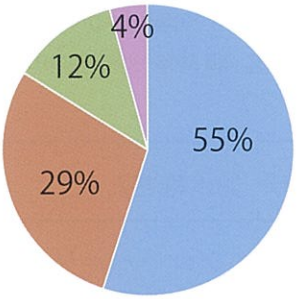
基調講演



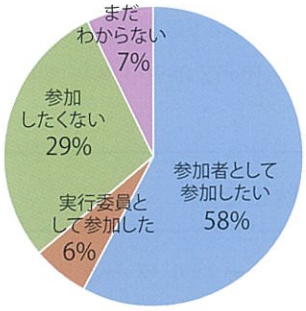
阿蘇学



ワールド・カフェ



来年も参加したいか



アンケート結果から、分科会活動では全体的に参加者には満足してもらえたという結果になりました。それぞれの分科会ごとでいろんなことをいろんな人と話すことができてよい機会になったという意見が多かったです。また、もっとECメンバーが参加者と一緒に話し合うようにしたほうがよかったと感じました。全体交流会では、ゲームが予想以上に早く終わってしまい、違うゲームを急遽することになりECメンバーの中でもあたふたしてしまい、参加者に混乱させてしまったところもあり満足度が少し低くなってしまいました。基調講演と阿蘇学は興味のある人と興味のない人の差が顕著に出ていました。しかし、基調講演を聴いて積極的な海外の活動に勇気づけられた人もいました。阿蘇学では震災について興味がある人が多かったようです。ワールド・カフェは６（満足）を選んだ人がとても多く将来を見つめる機会となり、また、外国人参加者と気軽に楽しく交流できる活動でした。グローバルキャンプ全体として参加者には思っていた以上に楽しんでもらえたのだと感じました。準備不足があり、段取りが悪くなってしまうところもありましたがECメンバー全員が臨機応変に対応したことでこの活動を無事に終わらせることができたと思います。

参加者より

Chu Myat Thu さん　（ミャンマー）

I would like to share my work- camp experience. On the first day, the participants gathered at the National Aso Youth Center.
In the beginning, they did opening session, a keynote speech and exchange meeting. One of the main　goals of this work- camp is to share the vision of the future and work to make it better. The participants split up into four teams which were education, the environment, tourism and disaster leadership.
Among them, our group discussed about tourism. We went to the Ubuyama village which is a short distance from Aso Youth Camp.
Although that village is full of attractive resources, it itself is not well developed as tourist site compared to other towns. So the reason of this fieldwork is how to promote this area by discussing and sharing ideas. We all did it very well and it was really a precious time for me. On the last day, every group did presentation about their topics and we all took group photos. After that, closing session did and we all moved to the bus. We went to the Aso sightseeing that was volcano and Aso shrine. I think this work- camp has potential and has already shown great results.
During the program duration, we had a chance to communicate with other international students , get a lot of knowledge and share our culture and experiences. All of the participants were really friendly. And also most of the Japanese students had warm-hearted minds. When we faced some problems before the last day, they were ready to help me. And also the language animations have inspired me to learn Japan in preparation of the next stage, and I have met many people who share my passion for volunteering. So this work- camp reflected me a best memory.

iBS 外語学院　本多紗也さん

私は２回目のグローバルワークキャンプの参加でした。分科会は観光でした。今回は熊本の阿蘇郡にある産山村に注目し、観光でビジネスをするために何が必要か、マーケティングの面から考えました。少子高齢化や村の人口減少などの日本の問題もふまえつつ、産山村の強みと弱みを明確にし、それらの改善点を論じ、今後どのように産山村が観光を通して維持できるかを考えました。

グロキャンは分科会活動も充実していますが、それだけでなく、留学生との交流を通して視野を広げる事が出来たり、その他の活動では自分を見つめ直す機会があったりととても貴重な経験が出来ます！

来年も参加したいです。

崑山科技大學　鈴木唯さん

今回初めてグローバルワークキャンプに参加しましたが、３泊４日で得たものはとても多かったです。毎日教育の必要性や重要性について話し合っていく中で教育は結局何を目指しているのかを考えるのがすごく難しかったけど、社会教育主事の方やドイツの教育制度についてのお話を聞き、さらに専門的な部分はECの皆さんがわかりやすく説明してくださったおかげで、最終的には教育分科会のメンバー全員で自分たちなりの結果を導き出せたのではないかと思います。私にとっても凄く貴重な経験となりました。

本当にありがとうございました。

実行委員長より

崇城大学　1年　森本　凛太郎

2018年3月27日、第6回グローバルワークキャンプを運営するための動きが始まりました。友達に誘われて来た人や前回一般参加して今年は実行委員としてやってみたいという人など数名大学生が国際交流会館に集りました。ただ一つ不安なことがありました。グローバルワークキャンプで実行委員（以下ECと略する）として参加した人が一人もいませんでした。大学1年にして実行委員長、もちろんECの経験もありません。不安はありましたがこの経験を無駄にしてはいけないと思い、自分を奮い起こしました。キックオフから当日、そしてこの報告書を制作するまでのあいだ、苦労の連続でした。EC全員が集まれる会議日程の調整やなかなか話がまとまらず、会議が何時間も続いたときもありました。自分の未熟さゆえにECメンバーにはいろいろ迷惑をかけてしまったと思います。それでも、メンバーの協力、応援もあり、実行委員長としてやりがいを感じました。今回、留学生がECメンバーとして関わっていましたが、英語と日本語を使ってのコミュニケーション…伝えたいことがなかなか伝わらない苦労、異文化への対応など、大変なこともありましたが、今まで知らなかった外国の文化や習慣を知り、色々と学ぶことができました。彼らだけではなく、このグローバルワークキャンプに関わったすべての人を通して自分の視野が広がりました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

グローバルワークキャンプでは、国内外の大学生が地域や社会課題について考え、話し合いを通して、何が問題で、何が出来るのかを皆で考えます。異文化の中で相手の意見を尊重しながら、コミュニケーションを図ります。つまりこれから社会で生きていくうえで、必要なことを学ぶことが出来ます。グローバルワークキャンプの魅力はここにあると思います。私は、最後まで実行委員長を務めることが出来てとても幸せでした。

最後に、このワークキャンプにECとして参加してみませんか？

グローバルワークキャンプは4日間のプログラムです。この短い期間のため、数ヶ月前からメンバーで話し合いを重ね、分科会や全体スケジュールを練り上げていきます。分科会でどれだけ話し合えるかがECとして求められます。簡単なことではないですが不可能ではありません。ぜひ挑戦してみてください。素晴らしい世界が待っています！

４日間の軌跡

４日間の軌跡

第６回グローバルワークキャンプ実行委員メンバー

森本　凛太郎（崇城大学）

那須　啓一郎（熊本大学）

出口　ゆい　（熊本大学）

永山　仁（熊本学園大学）

安部 航基（日本文理大）

城下　佑之介（日本文理大）

Francis Wargirai（熊本大学）

Thant Zin Win（熊本大学）

Alvarez Gonzalez Clara Maria（熊本大学）

Japa Soto Luis Francisco（熊本大学）

協力：熊本インドネシア友好協会・熊本東海大学「阿蘇の灯」
熊本ユネスコ協会・熊本留学生交流推進会議
大学コンソーシアム熊本・日本文理大学

主催：熊本市国際交流振興事業団